

(参考) 岩手大学と釜石市との連携について

岩手大学と釜石市は、平成 13 年 3 月 5 日に文化、教育、学術の分野で支援・協力するために県内の市町村で初めて「相互友好協力協定を締結」し、産学官連携・異業種交流に加え、市民向け生涯学習講座の開設、コバルト合金の研究開発に代表される新産業創出に向けた取り組みなど、多様な連携を推進してきました。

東日本大震災以降は、岩手大学において三陸復興に係る専門部署を立ち上げるとともに、平成 23 年 10 月、釜石市内に「岩手大学釜石サテライト」を設置し、多方面にわたる復興支援活動を展開しています。

水産分野においては、平成 25 年 5 月、釜石サテライト内に「岩手大学三陸水産研究センター」を設置するとともに、平成 28 年度に農学部食料生産環境学科水産システム学コースを、平成 29 年度に大学院総合科学研究科地域創生専攻水産業革新プログラムをそれぞれ新設しました。これらの改組により、釜石サテライトは、「岩手大学釜石キャンパス」として、水産業の持続的発展に貢献できる人材育成の場となりました。

農学部食料生産環境学科水産システム学コースでは、3 年生後期から研究室配属となり、釜石キャンパスに所属する増養殖等の研究室を選択した学生は、大学卒業までの約 1 年半の期間、釜石市を研究・生活の拠点として、専門科目の履修や研究活動を行っています。

学生の活力が、水産振興のみならず、釜石市全体の賑わいの創出にも繋がっていくことも期待されています。

また、令和元年 7 月には、水産業の発展と復興の担い手を育てる教育研究環境を充実させるため、釜石キャンパス内に国、岩手県と釜石市及び岩手大学の連携により「総合教育研究棟（水産系）」を開設し、講義室の他、無菌実験や組織学実験のための生物系実験室等を整備しました。

今後は本研究棟を核として、今回の「釜石ふるさと寄附金」を活用した事業等により、岩手大学と釜石市とのさらなる連携強化を図りながら、海洋・水産分野の研究活動と人材育成の取組をさらに推進していくこととしています。